

# あれから7年、東日本の今は…？

～今年4月下旬 津波被災地を訪ねて、見て、聞いて、肌で感じ、考えたことを、一人でも多くの人に伝えたい！～

7月15日(日)午前 梶山女学園大学教育学部棟2階 演習室C209室にて、CAN講座「あれから7年、東日本の今は…？」を開講しました。講座は、次の2講座です。

## 1限(講座番号 E111)

今年4月下旬、津波被災地の気仙沼(宮城県)、浪江町請戸(福島県)を訪ねて、見て、聞いて、肌で感じ、考えたことを、一人でも多くの人に伝えたい!(講師 外山孝司)

## 2限(講座番号 F317)

今年4月下旬、福島第一原発20km圏内を訪ねて、見て、聞いて、肌で感じたことを、一人でも多くの人に伝えたい!

(講師 大村昌宏)



教室は定員20名の小さな部屋でしたが、2講座ともに定員をオーバーし、熱い雰囲気の中で講義を進めました。

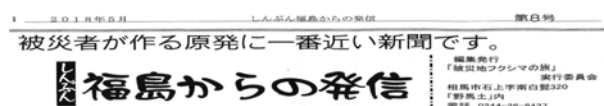
ここでは、私が講義した1限について報告します。2限の内容は大村さんから、「福島原発20km圏内ツアーの報告 後編」の中でしています。

1限は受講者25名、内感想提出者21名でした。開始時間の10分前には女子高校生1名がぼつんと椅子に座っている状況で、どうなるのかしらと心配していたら、開始時間になったら用意した椅子が満席になり、そして何と開始間際にどどどと5人が教室に入って来て、大慌てで隣の教室から椅子を移動して対応するわ、用意していた資料も足らなくなって、講師の私の分も渡すということで、ワクワク、ドキドキのスタートとなりました。

講義は情報誌「CAN」217号に掲載した原稿をもとに、現地で撮影した写真に加えて、現地の方に提供していただいた貴重な写真や動画をもとに作成したパワーポイントを使って行いましたが、実は情報誌217号で紹介した「請戸小学校の奇跡」には、後日譚(たん)がありました。この場を借りて紹介させていただきます。

## 請戸小学校の奇跡の後日譚(たん)

「しんぶん福島からの発信」第8号(2018年5月発行)が「被災地フクシマの旅」実行委員会から送られてきました。



「2018年3月7日

参加者 村松孝一、村上精一

よくも歩いた子どもたち 請戸小児童たちの避難経路を辿る！」

子どもたちが歩いた大平山はどんな山道だったのか以前から歩いてみたかった。震災に合わせて3月に実行。



～ 省略 ～

双葉町内の国道6号のバリケードが見えてきた。子どもたちはここで大型トラックに拾われて浪江町役場の避難所に行くことができた。双葉町内は現在、帰還困難区域。国道6号線は歩行者は通行禁止区域である。国道に出て、浪江町との境界へ向けて500mほど歩いた。北を向いている警備員がいた。私たちが「こんにちは」と声を掛けると驚いて飛び上がった。歩行者や自転車、バイクなどの南下を監視しているの、後ろから歩いてくる人がいるとは思っていなかったのだ。そのまま確保され警察に通報される。またたくまにパトカーが6台も集まった。最初の警察官は奈良県警の応援部隊。続いて地元福島県警双葉署。私たちは山歩きの姿だから問題は大きくなりたくないとは思いましたが、解放されるまで15分ぐらいのお付き合いをさせられた。住所氏名は？どこから来た？目的は？ここは歩いてはいけないところだとは知らなかったのかと矢継ぎ早に職質を受けた。丁寧にこやかにお相手したが、子どもたちが避難に使った道を検証しているなんてどれだけ理解してくれただろうか、結末はとんだ検証行動になった。

村松孝一さんは私たちの4月下旬の福島第一

原発20km圏内ツアーでボランティアガイドとして案内してくれた方です。

この記事で、分かったことは、“子どもが山で元気に遊んでいたからこそ、道が開け、一方先生たちもその子に運命を託す勇気があったからこそ、素晴らしい結果に繋がった”ということで、「請戸小学校の奇跡」として絵本や紙芝居になったエピソードは、福島第一原発事故があったことで、原発20km圏内では、今後はありえないという悲しい現実です。

何故かという、山や草地は放射性物質の除染作業が手がからずで放射線量が高く、立入禁止になっており、この状況は向こう100年近くも続くと言われていているからです。

原発事故は、無残にも子どもたちが山や草地で遊ぶ自由を奪ったのです。

## 受講者みなさんの感想文

愛知中学校 2年男子

震災から7年経って、現在被災地はどんな状況かが、スライドや実際のレポートで詳しく説明されよく分かりました。

夫や両親を亡くした人の生々しい気持ちが伝わって、大変に悲しい気持ちになりました。

国や県が立てる対策と現地の人が感じている考えが違っていることがよく分かりました。

岡崎城西 3年女子

津波の映像はよくニュース等で流れてくる固定カメラの映像をよく目にしていましたが、工場で働いている人が見た、実際に体験した映像は初めて見ました。

水の流れがとても速く、様々な家具や家電が流れていて、水もとても濁っていたので、もしあの中に流されてしまったら...と思ったら、ソッとしました。

復興をするにあっても、商店街などのお店を

持つ人たちはテントやプレハブなどの過程を経て、今やっとの思いで新しくお店を建設することができているんだということを知りました。

「地震が起きたら...」のシミュレーションがどこでも行われているということを私は知りませんでした。それを知っているのと、知らないのでは自分やその周りの人々が助かる確率は大分違ってくるのではないかと、とても考えさせられる講座でした。

私の家の周りは海から遠いため、津波の被害は無いと思いますが、田んぼや川が近いため液状化の心配が予測されます。住む場所によって内容は変わりますが、何かしらの被害にあうということはあるから、その対策や避難場所は家族でよく話し合いをしておき、家族がみんな家にいない時に何か起こっても全員でまたそろえることができるような対策をしていきたいです。

今日はありがとうございました。

安城学園 2年女子

たくさん動画がありとても分かりやすかったです。

南海トラフ地震がもうすぐ来るぞっといわれていて、津波も来ると聞いているので、東日本のような高い津波が来たら恐ろしいなと思いました。

請戸小学校の奇跡の話で、生徒の中の一人が山で遊んだことがあって、山の中の道を知っていてみんなを誘導したと聞き、安全だと知っていても道を知らなければ意味がないんだなと思い、避難経路を実際に一度歩き、確認することが大切だと思いました。

この紙芝居や絵本を読みたいと思いました。

同朋高校 1年女子

今までメディアでは見ることのできなかった話がいっぱい聞けてよかったです。

震災後もあきらめず、住み慣れた町のために頑張っている人や、震災を体験したからこそその意見など、聞いていてとても参考になりました。

これらの情報を忘れないよう、いろいろな人に語り継いだり、これから起こると言われている南海トラフ地震の対策の参考にしたいと思います。

災害というのは、私たちが予想するよりもはるかに大きく、凶暴なもので、常識にとらわれていてはいけないんだと思いました。

豊川高校 2年女子

私も今年の3月に福島を訪れたり、気仙沼に友達がいるのもっと東日本の現状を知りたいと思い、この講義を受けました。

東日本や名古屋の津波を想定したシミュレーションがあることを初めて知りました。

今年も大阪や千葉で地震が起こっているのに、愛知県にいつ地震が来てもおかしくないのに、避難場所を確認しておこうと思いました。

請戸小学校も実際に見に行きましたが、避難するとき、小学生が頑張ったことは知らなかったのに、皆に教えてあげたいと思いました。

(文責 外山)